

表 8 G-Com Quest (Gay Community-based Questionnaire)年齢別分析(5)

	年齢階級						合計	Pearson カイ2乗	
	29歳以下		30-39歳		40歳以上				
一番最近にアナルセックスをしたのはいつですか？*1									
現在から過去6ヶ月間の間	17	77.3%	13	59.1%	6	54.5%	36	65.5%	0.57
過去6ヶ月間から過去1年間の間	2	9.1%	2	9.1%	1	9.1%	5	9.1%	
1年以上前	3	13.6%	5	22.7%	2	18.2%	10	18.2%	
覚えていない	0	0.0%	2	9.1%	2	18.2%	4	7.3%	
合計	22	100.0%	22	100.0%	11	100.0%	55	100.0%	
一番最近にアナルセックスをした相手はどれにあてはまりますか？*1									
彼氏や恋人	7	31.8%	9	40.9%	7	63.6%	23	41.8%	0.75
友達やセクフレ	8	36.4%	6	27.3%	2	18.2%	16	29.1%	
その場限りの相手	6	27.3%	6	27.3%	2	18.2%	14	25.5%	
その他	1	4.5%	1	4.5%	0	0.0%	2	3.6%	
合計	22	100.0%	22	100.0%	11	100.0%	55	100.0%	
そのときの相手とアナルセックスをしたときに、コンドームを使いましたか？*1									
使用	13	59.1%	16	72.7%	7	63.6%	36	65.5%	0.73
不使用	7	31.8%	4	18.2%	2	18.2%	13	23.6%	
覚えていない	2	9.1%	2	9.1%	2	18.2%	6	10.9%	
合計	22	100.0%	22	100.0%	11	100.0%	55	100.0%	
そのときの相手と、初めて知り合ったのはどこですか？*1									
ゲイバー	2	9.1%	8	36.4%	6	54.5%	16	29.1%	0.33
ゲイナイト	0	0.0%	1	4.5%	0	0.0%	1	1.8%	
ゲイショップ	1	4.5%	0	0.0%	0	0.0%	1	1.8%	
PC出会い系	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	
携帯出会い系	7	31.8%	7	31.8%	3	27.3%	17	30.9%	
mixiなどのSNS	3	13.6%	2	9.1%	0	0.0%	5	9.1%	
エロ系SNS	2	9.1%	0	0.0%	0	0.0%	2	3.6%	
スマートフォンのゲイ向けアプリ	2	9.1%	1	4.5%	0	0.0%	3	5.5%	
ゲイ向けサークル	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	
ゲイ向け合コン	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	
ゲイの乱パ	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	
有料ハッテン場	3	13.6%	0	0.0%	2	18.2%	5	9.1%	
野外ハッテン場	0	0.0%	1	4.5%	0	0.0%	1	1.8%	
ハッテン場で有名な公共施設	0	0.0%	1	4.5%	0	0.0%	1	1.8%	
覚えていない	2	9.1%	1	4.5%	0	0.0%	3	5.5%	
合計	22	100.0%	22	100.0%	11	100.0%	55	100.0%	
そのときセックスする前にコンドームについてどのように思っていましたか？*1									
使いたいと思っていた	13	59.1%	16	72.7%	7	63.6%	36	65.5%	0.30
使いたいと思っていなかった	1	4.5%	2	9.1%	1	9.1%	4	7.3%	
相手に合わせようと思っていた(相手次第)	8	36.4%	2	9.1%	3	27.3%	13	23.6%	
わからない/覚えていない	0	0.0%	2	9.1%	0	0.0%	2	3.6%	
合計	22	100.0%	22	100.0%	11	100.0%	55	100.0%	
そのときコンドームやローションは手の届く所にありましたか？*1									
コンドームもローションもあった	16	72.7%	16	72.7%	8	72.7%	40	72.7%	0.76
コンドームだけあった	0	0.0%	2	9.1%	0	0.0%	2	3.6%	
ローションだけあった	3	13.6%	2	9.1%	2	18.2%	7	12.7%	
コンドームもローションもなかった	2	9.1%	1	4.5%	0	0.0%	3	5.5%	
わからない/覚えていない	1	4.5%	1	4.5%	1	9.1%	3	5.5%	
合計	22	100.0%	22	100.0%	11	100.0%	55	100.0%	

*1生涯のアナルセックス経験がある人を分析対象としたため総数は異なる

表9 G-Com Quest (Gay Community-based Questionnaire)年齢別分析(6)

	年齢階級						合計	Pearson カイ2乗	
	29歳以下		30-39歳		40歳以上				
過去6ヶ月間のアナルセックス経験*1									
なし	3	13.6%	6	27.3%	4	36.4%	13	23.6%	0.31
あり	19	86.4%	16	72.7%	7	63.6%	42	76.4%	
合計	22	100.0%	22	100.0%	11	100.0%	55	100.0%	
過去6ヶ月間のアナルセックス時のコンドーム使用状況*2									
非常用	14	73.7%	8	50.0%	3	42.9%	25	59.5%	0.22
常用	5	26.3%	8	50.0%	4	57.1%	17	40.5%	
合計	19	100.0%	16	100.0%	7	100.0%	42	100.0%	
過去6ヶ月間に彼氏や恋人などの相手とアナルセックスをしましたか?*1									
なし	14	63.6%	14	63.6%	5	45.5%	33	60.0%	0.55
あり	8	36.4%	8	36.4%	6	54.5%	22	40.0%	
合計	22	100.0%	22	100.0%	11	100.0%	55	100.0%	
彼氏や恋人などの相手とのコンドーム使用状況*3									
非常用	7	87.5%	2	25.0%	3	50.0%	12	54.5%	0.04
常用	1	12.5%	6	75.0%	3	50.0%	10	45.5%	
合計	8	100.0%	8	100.0%	6	100.0%	22	100.0%	
過去6ヶ月間に友達やセクフレなど恋人ではない特定の相手とアナルセックスをしましたか?*1									
なし	15	68.2%	14	63.6%	7	63.6%	36	65.5%	0.94
あり	7	31.8%	8	36.4%	4	36.4%	19	34.5%	
合計	22	100.0%	22	100.0%	11	100.0%	55	100.0%	
友達やセクフレなど恋人ではない特定の相手とのコンドーム使用状況*4									
非常用	7	100.0%	4	50.0%	1	25.0%	12	63.2%	0.03
常用	0	0.0%	4	50.0%	3	75.0%	7	36.8%	
合計	7	100.0%	8	100.0%	4	100.0%	19	100.0%	
過去6ヶ月間にその場限りの相手とアナルセックスをしましたか?*1									
なし	11	50.0%	18	81.8%	9	81.8%	38	69.1%	0.04
あり	11	50.0%	4	18.2%	2	18.2%	17	30.9%	
合計	22	100.0%	22	100.0%	11	100.0%	55	100.0%	
その場限りの相手とのコンドーム使用状況*5									
非常用	7	63.6%	4	100.0%	0	0.0%	11	64.7%	0.05
常用	4	36.4%	0	0.0%	2	100.0%	6	35.3%	
合計	11	100.0%	4	100.0%	2	100.0%	17	100.0%	

*1生涯のアナルセックス経験がある人を分析対象としたため総数は異なる

*2過去6ヶ月間のアナルセックス経験がある人を分析対象としたため総数は異なる

*3過去6ヶ月間に彼氏・恋人とのアナルセックス経験がある人を分析対象としたため総数は異なる

*4過去6ヶ月間に友達やセクフレなど恋人ではない相手とのアナルセックス経験がある人を分析対象としたため総数は異なる

*5過去6ヶ月間にその場限りの相手とのアナルセックス経験がある人を分析対象としたため総数は異なる

表 10 G-Com Quest (Gay Community-based Questionnaire)年齢別分析(7)

	年齢階級						合計	Pearson カイ2乗	
	29歳以下		30-39歳		40歳以上				
コミュニティセンターに行ったことがありますか？									
行ったことがある	12	14.1%	4	4.0%	1	1.5%	17	6.8%	0.01
知っているが行ったことない	35	41.2%	54	54.5%	32	48.5%	121	48.4%	
知らない	38	44.7%	41	41.4%	33	50.0%	112	44.8%	
合計	85	100.0%	99	100.0%	66	100.0%	250	100.0%	
コミュニティペーパーを読んだことがありますか？									
読んだことがある	31	36.5%	30	30.3%	19	28.8%	80	32.0%	0.60
知っているが読んだことない	23	27.1%	36	36.4%	20	30.3%	79	31.6%	
知らない	31	36.5%	33	33.3%	27	40.9%	91	36.4%	
合計	85	100.0%	99	100.0%	66	100.0%	250	100.0%	
配布 Condom を持ち帰ったことがありますか？									
過去1年間に持ち帰った	18	21.2%	14	14.1%	6	9.1%	38	15.2%	0.33
1年以上前に持ち帰った	13	15.3%	24	24.2%	16	24.2%	53	21.2%	
知っているが持ち帰ったことない	17	20.0%	22	22.2%	18	27.3%	57	22.8%	
知らない	37	43.5%	39	39.4%	26	39.4%	102	40.8%	
合計	85	100.0%	99	100.0%	66	100.0%	250	100.0%	
あなたは仙台で開催された「男魂-MEN SOUL」に行ったことがありますか？*1									
行ったことがある	7	10.9%	6	8.2%	0	0.0%	13	7.0%	0.08
知っているが行ったことはない	34	53.1%	50	68.5%	33	68.8%	117	63.2%	
知らない	23	35.9%	17	23.3%	15	31.3%	55	29.7%	
合計	64	100.0%	73	100.0%	48	100.0%	185	100.0%	
あなたは現在実施されている「オンラインアンケートREACH Online 2011」に回答したことがありますか？									
ある	6	7.1%	5	5.1%	1	1.5%	12	4.8%	0.28
ない	79	92.9%	94	94.9%	65	98.5%	238	95.2%	
合計	85	100.0%	99	100.0%	66	100.0%	250	100.0%	

* 1 無回答を除き分析したため総数は異なる

首都圏の MSM における HIV 感染対策の企画と実施

研究代表者：市川誠一(名古屋市立大学看護学部・教授)

研究協力者：荒木順子、木南拓也、佐久間久弘(公益財団法人エイズ予防財団/非営利団体 akta)、阿部甚兵、大島岳、柴田恵(非営利団体 akta)、岩橋恒太(非営利団体 akta/名古屋市立大学看護学部)、生島嗣、加藤悠二、桜井啓介(NPO 法人ふれいす東京)、高野操(公益財団法人エイズ予防財団)、本間隆之(山梨県立大学看護学部)、木村博和(横浜市健康福祉局)、中村久美子、塩野徳史(名古屋市立大学看護学部)

研究要旨

2006 年度から 2010 年度にかけて、厚生労働省エイズ対策研究事業「エイズ予防のための戦略研究」課題 1 では、首都圏に居住する MSM を対象に、HIV の予防啓発、検査普及活動を様々なネットワークを活用して取り組んだ。その介入の結果、首都圏の MSM における HIV 検査の受検者割合の増加、エイズ発症で感染がわかるケースの減少という成果をあげた。2011 年 3 月をもって「エイズ予防のための戦略研究」は終了したが、その後も効果的な HIV 感染対策を継続、展開していくことが望まれている。

本研究では、首都圏の男性同性愛者等を対象に、HIV 抗体検査の啓発普及、HIV 感染予防の啓発普及を促進し、エイズ発症者の減少と HIV 感染の拡大防止を目的とする。コミュニティセンター akta を中心としたコミュニティベースの啓発活動、そしてふれいす東京との協働体制である MSM 首都圏グループにより検査普及啓発活動を行った。エイズ予防のための戦略研究で構築したネットワーク、すなわちコミュニティにおける啓発活動を促進する商業施設やメディア等とのネットワーク、安心して受けられる HIV 検査の受検促進のための行政・保健所、医療機関とのネットワーク、そして多様なニーズに対応した支援を行っている NGO/NPO 等とのネットワークの継続を図った。本年度は以下のことを実施した。

1. コミュニティセンター akta を中心とした啓発活動

2003 年 9 月オープン～2012 年 2 月末までの延べ総来場者は 79,655 人となった。2011 年度来場者数(2012 年 2 月 29 日まで)は 7,545 人、初来場者は 1,535 人(来場者の 20.3%)であった。毎月の定期発行制作物としてマンスリーペーパー、TAKE FREE CONDOM を作成し、DELIVERY BOYS、ADULT DELIVERY、資材発送により配布した。行政、検査施設との連携として、新宿区保健所、港区みなと保健所、東京都福祉保健局、多摩川病院の検査情報を広報した。

2. 首都圏地域の MSM を対象にした HIV 抗体検査受検行動を促進するための介入研究

NPO 法人ふれいす東京、非営利団体 akta による MSM 首都圏グループを形成し、戦略研究後の HIV 感染対策に取り組む体制とし、(1)エイズ対策事業に関する意見交換会、(2)保健所等の HIV 検査担当者への研修会、(3) HIV 検査受検行動促進啓発プロジェクト(ヤロー プロジェクト)の開発と普及、(4)相談体制の整備(インターネットサイト「HIV マップ」との連動)、(5) MSM 集団における啓発介入の評価調査について実施した。啓発普及は、新宿地域を中心に上野・浅草、新橋、横浜で、商業施設や各種メディアを介して行った。

A. 研究目的

非営利団体 akta は、2002 年から有志として集い、厚生労働省エイズ対策研究事業と協働しながら、主に MSM (Men who have Sex with Men: 男性と性交渉をもつ男性) を対象とした HIV の予防啓発活動を行ってきた。2003 年からは、新宿二丁目にある HIV/エイズの情報発信施設 “community center akta” (公財エイズ予防財団受託) を運営・支援してきた。これらを通じて、2011 年 4 月に「非営利団体 akta」を設立し、東京のゲイコミュニティの中において HIV 予防啓発活動を進めるための環境・体制を整え、HIV をめぐる様々な問題に対して活動を推進している。非営利団体 akta は、<全ての人々がすでに HIV とともに生きている>という視点から、HIV への感染機会のある人びとと HIV 陽性者を対象に予防啓発と支援の両面の重要性を踏まえ、多様なセクシャリティの周知・理解を促すことで、偏見や差別のない、だれもが自分らしく暮らせる街づくりを目指す活動を行っている。

2011 年 9 月 27 日の厚生労働省エイズ動向委員会の発表によれば、現在東京都における感染報告数は、HIV 感染者で全国の約 4 割、エイズ発症者では約 3 割が MSM となっている。また、日本における累積の HIV 感染者報告数は 13,083 人、エイズ発症者報告数は 6,036 人であり、そのうちの約 8 割が MSM で、大きな割合を占めている。

2006 年度から 2010 年度にかけて、厚生労働省エイズ対策研究事業「エイズ予防のための戦略研究」の課題 1 では、首都圏での取り組みを行う MSM 首都圏グループに参画し、首都圏に居住する MSM を対象に、HIV の予防啓発・検査普及活動に従事してきた。その介入の結果、首都圏の MSM における HIV 検査の受検者割合の増加、エイズ発症で感染がわかるケースの減少という成果をあげた。しかし、2011 年 3 月をもって「エイズ予防のための戦略研究」が終了した後も、効果的な HIV 感染

対策を展開していくことが望まれている。

本研究では、首都圏の男性同性愛者等を対象に、HIV 抗体検査の啓発普及、HIV 感染予防の啓発普及を促進し、エイズ発症者の減少と HIV 感染の拡大防止を目的とする。

コミュニティセンター akta を中心としたコミュニティベースの啓発活動、そしてふれいす東京との協働体制である MSM 首都圏グループによる戦略研究後の啓発活動を、エイズ予防のための戦略研究で構築したネットワーク、すなわちコミュニティにおける啓発活動を促進する商業施設やメディア等とのネットワーク、安心して受けられる HIV 検査の受検促進のための行政・保健所、医療機関とのネットワーク、そして多様なニーズに対応した支援を行っている NGO/NPO 等とのネットワークの継続を図りつつ進めた。

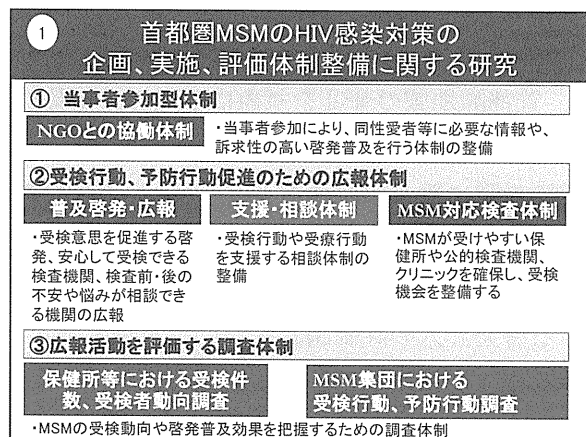
B. 研究方法

1. 対象地域・対象者

首都圏（東京都、神奈川県、千葉県、埼玉県）に在住する MSM を対象者とした。

2. 研究方法および介入方法

MSM を対象に HIV 検査受検を促進し、早期発見、早期受診によるエイズ発症防止を図るために、戦略研究で構築した MSM への啓発体制、HIV 検査と相談体制、研究成果を把握する調査体制のそれぞれが連動する研究体制を継続した (図①)。



1) HIV 検査受検行動を促進するための啓発資材・プログラムの開発と普及

首都圏の NGO/NPO と協働し、HIV 感染をより身近に感じさせ、感染リスク認識を高め、MSM に訴求性のある資材の開発と普及を実施する。HIV 検査受検行動の促進を目的とした啓発資材はゲイ商業施設、ゲイメディア、ゲイサークル等のネットワークを通じて情報の浸透と普及拡大を図る。

2) HIV 検査体制の整備と拡大

ゲイ NGO の広報と連動する保健所や公的 HIV 検査機関、STD 関連クリニックを確保し、MSM の HIV 検査受検の機会拡大を図る。受検行動の阻害因子となっている MSM への偏見や不適切な対応に対し、MSM への対応や相談に関する研修を実施する。

3) 相談体制の整備

HIV 検査受検前後に不安を抱える者を対象とした MSM 向けの相談体制を、首都圏の戦略研究では既存の NGO、NPO 等による電話相談等を関係機関・団体の許可を得て HP (HIV マップ) で案内してきた。戦略研究後、HIV マップは事業化され、ふれいす東京が受託し継続している。本研究では、保健所と連携した検査促進のための検査情報を、HIV マップと連動して取り組むことを継続した。

4) 評価調査体制の整備

MSM への啓発普及が及ぼす影響については、保健所、公的 HIV 検査機関等における HIV 検査受検件数、陽性件数を調査し、それらの動向を把握する。また、同検査機関の HIV 検査受検者への質問紙調査により MSM の受検者数(割合)、および啓発普及プログラムの曝露状況を把握することとした。

また、介入地域の MSM に対してコミュニティを基盤とした携帯電話等による横断調査、そして横断調査後に間歇的に継続して行う質

問紙調査に協力参加する MSM をリクルートし、啓発介入プログラムの認知率、生涯受検率および過去 1 年間の受検率等を把握するパネル調査を企画した。

3. 評価項目

1) 保健所、公的 HIV 検査機関等における HIV 検査受検者調査

首都圏において MSM の HIV 抗体検査を促進する広報介入を行い、本研究の検査受け入れに協力した施設(以下、定点施設)とそれ以外の施設別に HIV 検査件数や陽性割合の動向、受検者アンケートによる受検者中の MSM 割合や啓発資材曝露率の動向、さらにエイズ発症動向調査におけるエイズ発症者数の抑制効果などを介入前後で比較する。

評価項目は、以下の通りである。

(1) 定点保健所および公的 HIV 抗体検査機関、定点クリニックで行われた MSM の HIV 抗体検査件数

(2) MSM 受検者のうち本研究の啓発・広報戦略に曝露された割合

(3) MSM 集団における HIV 抗体検査の生涯および過去 1 年間の受検率

(4) 男性受検者の陽性割合

(5) HIV 診断時における MSM の AIDS 発症者数

2) 横断調査およびパネル調査

(1) MSM 集団における本研究の啓発・広報戦略に曝露された割合

(2) MSM 集団における HIV 抗体検査の生涯および過去 1 年間の受検率

(3) 啓発曝露と受検行動の関連分析による効果評価 など

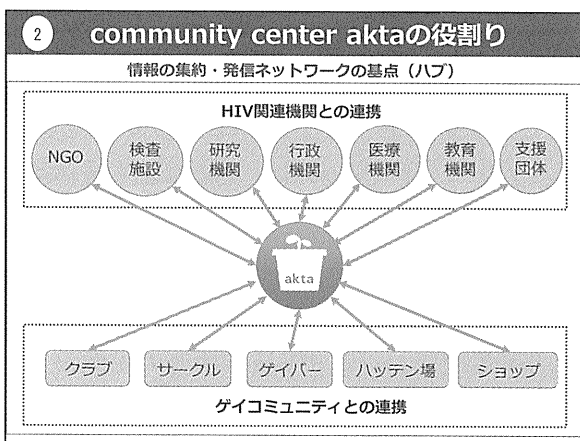
C. 研究結果

1. コミュニティセンターakta を中心とした啓発活動

1) コミュニティセンターの機能と役割

コミュニティセンター「akta」は、MSM を対象とした HIV 感染対策をコミュニティベー

スに取り組む啓発普及拠点として 2003 年 8 月に設立された。HIV/AIDS に関連した啓発活動がゲイコミュニティに根ざしたものとなるように、MSM を対象とする新宿や他地域のバー、クラブ、ハッテン場などの商業施設との協力関係を構築し、その利用者へのアプローチを進めている(図②)。また、HIV/AIDS に関連した行政や医療機関の情報をコミュニティに普及するために、厚生労働省、東京都、神奈川県、千葉県、埼玉県などのエイズ担当部署や検査・医療機関との関係性を構築している。さらに啓発プロジェクトを進めるにあたっては、他の NGO/NPO との連携を図っている。



コミュニティセンターakta では主に以下の活動が行われている。

- ① 来場者への対応：必要な情報の提供
- ② 啓発プロジェクトの企画・実施
- ③ MSM 向け啓発資材の作成とアウトリーチ
- ④ 関係団体とのコラボレーション
- ⑤ 検査機関での同性愛者等支援の研修会
- ⑥ 行政、検査施設との連携による資材作成
- ⑦ 展覧会、ワークショップ等の開催

2) コミュニティセンター来場者の動向

2003 年 9 月オープン～2012 年 2 月末までの延べ総来場者は 79,655 人となった。2011 年度来場者数（2012 年 2 月 29 日まで）は 7,545

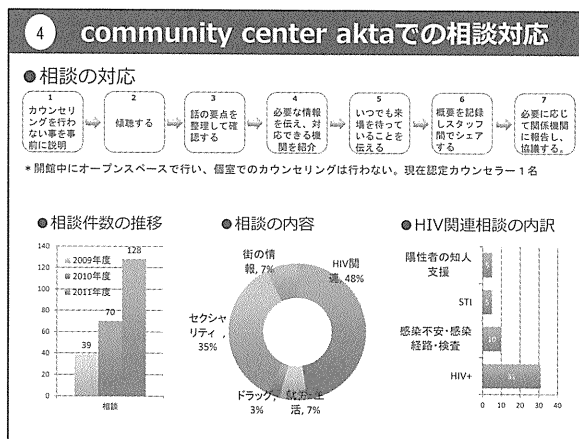
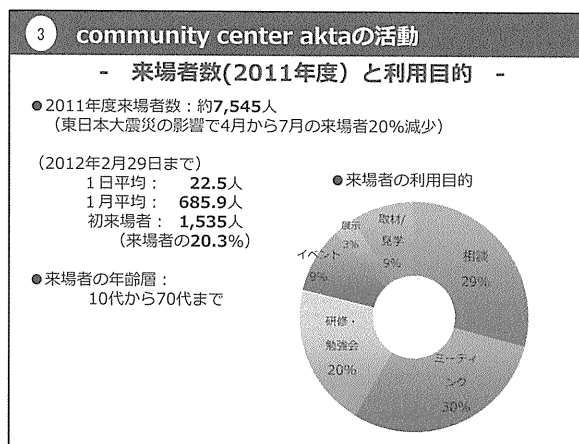
人、初来場者は 1,535 人（来場者の 20.3%）であった(図③)。2011 年 3 月 11 日の東日本大震災の影響のためか 4 月から 7 月の来場者は 20%減少であった。2011 年度は、1 日平均 22.5 人（1 月平均 685.9 人）の来場者で、年齢も 10 代から 70 代までと広い年齢層の利用であった。

来場者の利用は、ミーティング 30%、相談 29%、研修・勉強会 20%が主で、イベント参加、取材・見学が各々 9%であった。相談は、開館中のオープンスペースでの相談であり、個室でのカウンセリングは行わず、相談内容に応じて関係機関・団体、資材等を紹介する対応としている(図④)。相談件数が年々増加し、来場者のニーズが示されている。内容についてみると、HIV 関連とセクシュアリティがほぼ半数近くを占め、ドラッグや医療についても見られている。

●相談の取り組み事例：

利用者 A さん。20 代ゲイ男性。

1 年前に友人に連れられて akta を初来訪。



継続的に立ち寄り、待ち合わせ等に利用。高熱が1週間以上続いた体調不良時に来訪。akta事務局員からクリニックを紹介。拠点病院に救急外来し、HIV陽性が判明。その後つきあっているパートナーに地元の検査施設でのHIV検査を勧めて、当日検査に同行。職員から「陽性者となつきあっているのだから感染して当然という趣旨の事を言われた」と、aktaに相談に来場。後日、aktaはMSM首都圏グループで当該検査施設を訪問し、経緯説明と状況確認、情報交換を行い、利用者が安心して検査を受けることのできる環境の整備を行っていくことを確認した。

3) 啓発資材の作成・配布






コミュニティに向けた情報誌としてマンズリーaktaを2005年から毎月定期発行している。コミュニティセンターaktaの周知、HIV/AIDS・STIの最新情報を発信するフリーペーパー、コミュニティセンターを中心にした”情報の集約と発信”のネットワークを誌面で表現している。年間48,000部を、新宿2丁目バー&クラブ164店舗、ゲイ向け性風俗店&ポルノショップ47店舗、行政・教育・医療・研究機関等40施設、保健所49施設、HIV関連NGO15施設に配布している。

また、啓発資材としてTAKE FREE CONDOMを、2003年より毎年約20種類のデザインを制作して、バー等の商業施設に配布している。ゲイコミュニティに人気のクリエイターとのコラボレーションと、セーフターセックスに関するメッセージで、常に話題性と親和性を提供している。年間に66,000個を新宿2丁目バー&クラブ164店舗に配布している。

2005年から実施してきたクラブイベント参加MSMを対象にした質問紙調査の結果では(2009年度厚生労働科学エイズ対策研究事業「男性同性間のHIV感染対策とその介入効果に関する研究」報告書参照)、過去1年間のHIV検査受検割合は、2007年、2009年の年次

において「akta認知あり群」の受検行動が高く、40%から60%に上昇していた(akta非認知群は31%から47%の上昇)。また、コンドーム購入行動、最後のアナルセックス時のコンドーム使用率も2005年に比して2009年に上昇し、特に「akta認知あり群」に高いことが示されている。

これらのアウトリーチ活動は、DELIVERY HEALTH PROJECTとして継続してきたもので、毎週金曜日に、ボランティアスタッフ・DELIVERY BOYSによって行われている。また、23区内のゲイ向け風俗店にはADULT DELIVERYとして資材配布が行われている(図⑤)。

5 DELIVERY HEALTH PROJECT の活動			
デリバリーボーイズ	アダルトデリバリー	資材発送	MSM首都圏グループ
 <p>新宿2丁目ゲイバー&クラブ、 毎週金曜日 (第3週を除く) 164店舗へ配布。 定期的な顔と顔を合わせた配布を行う</p> 	 <p>東京23区内ゲイ向け性風俗店&ポルノショップ、 毎月1回 47店舗へ配布。</p> 	 <p>MSMを取巻く環境へのメール便・郵送でのアウトリーチ。 行政機関14件 教育機関5件 医療機関18件 研究機関3件 保健所49件 HIV関連NGO20件 自助グループ2件 出版社6件 放送メディア3件 その他24件</p>	 <p>渋谷・新橋・上野・浅草のゲイバー、67店舗へ配布。 訪問による配達を好まない首都圏ゲイバーへの郵送によるアウトリーチ、214件へ発送。 ヤローページへ検査情報が掲載された特奈川県、千葉県、埼玉県保健所</p>
合計144件			合計281店舗
啓発資材を届けるコミュニケーション活動。情報を楽しく届けて、街の空気を持ち帰る。			

4) Living Together 計画

NPO法人「ふれいす東京」との協働で2003年から始めたプロジェクトである。「HIVに感染している人も、感染していない人も、感染しているかどうかわからない人も、すでにHIVと共に生きている」とのメッセージで、HIV陽性者やその周囲の人々が書いた手記を、第三者が朗読し、感想を語ることで、HIVのリアリティーを伝え、HIVの問題に対して向き合うことを促すプロジェクトである(図⑥)。

- ・LT-Lounge (一部東京都福祉保健局委託事業と協同): 3人のゲストによる朗読とミュージシャンによるライブ構成で、新宿2丁目クラブ「ArcH」を会場に12回開催、年間来場者累計832人、内初来場者数319人であった。
- ・のど自慢LT: 6人のゲストによる朗読とカ

ラオケパフォーマンスの構成で新宿2丁目老舗ゲイバー・九州男で年4回開催、年間来場者累計268人、内初来場者数176人であった。

5) 行政、検査施設との連携

新宿区保健所、港区みなと保健所、東京都福祉保健局、多摩川病院などの、MSM に向けた行政・保健所の検査普及のための広報に協力した(図⑦)。セーファーセックスガイドは、HIV の感染経路を知って、HIV に感染して

も、感染していなくてもセーファーなセックスを考える冊子として作成され配布してきた(図⑧)。保健所等からの利用要望が高い。

6) その他の事業等

HIV に関連した周囲のこととして、ICAAP2011 (参加者27名)、HIV とドラッグのこと(42名)、HIV とメンタルヘルスのこと(39名)、HIV と人とのつながりのこと(45名)などをテーマにしたトークショーを開催した。

また、以下の関連企画に参加、出演し、広く一般市民や専門家に向けた啓発も行った。

- ・東京都「Words of LOVE」ユーストリーム
- ・NHK「ハートをつなごう」
- ・Tokyo International Lesbian&Gay Film Festival
- ・厚生労働省 世界エイズデー代々木公園ケヤキ並木ブース
- ・第25回日本エイズ学会発表およびブース
- ・国立保健医療科学院「全国保健所エイズ担当者研修会」など

6 Living Together 計画との協同プロジェクト

Living Together "Lounge"	Living Together "のど自慢"
<p>会場: 新宿2丁目クラブ「Arch」で開催 構成: HIV陽性者やその周囲の人々が書いた手記を、第三者が朗読し、感想を語る。3人のゲストによる朗読とミュージシャンによるライブ。</p> <p>●年間開催数: 12回 ●年間来場者数累計: 832人 ●内初来場者数: 319人</p>	<p>会場: 新宿2丁目老舗ゲイバー・九州男で開催 構成: HIV陽性者やその周囲の人々が書いた手記を、第三者が朗読し、感想を語る。6人のゲストによる朗読とカラオケパフォーマンス。</p> <p>●年間開催数: 4回 ●年間来場者数累計: 268人 ●内初来場者数: 176人</p>

HIV/AIDSや陽性者の存在を可視化し、リアリティーを伝え、予防行動を促進する。

7 地方自治体・医療機関との連携—啓発資料の制作と配布

新宿区保健所	港区みなと保健所	多摩川病院	東京都福祉保健局
7月10日検査フライヤー制作	12月10日検査フライヤー制作	検疫所リーフレット制作	保健所マップ制作
11月10日検査フライヤー制作	MSM向けAIチェックフライヤー制作	(右側面)	(内側)

MSMに届く検査情報を視覚化し、検査行動を促す。

2. 首都圏地域の MSM を対象にした HIV 抗体検査受検行動を促進するための介入研究

NPO 法人ふれいす東京と非営利団体aktaが協働して首都圏のMSMに向けてHIV検査促進等の啓発に取り組むMSM首都圏グループを形成し、戦略研究後のHIV感染対策に取り組む体制とした。啓発地域は、新宿を中心とし、上野・浅草、新橋、横浜にも商業施設や各種メディアを介して啓発普及を行うこととした。

2006年～2010年にかけてエイズ予防のための戦略研究により、保健所等のHIV検査機関と関係を構築し、MSMに向けて「あんしんHIV検査サーチ」で受検を勧奨してきた。戦略研究が終了したことにより、これらのネットワークが中断されることで、MSMのHIV検査受検環境が後退することが無いように、再度、MSM対象のHIV検査が実施できる保健所や医療機関とのネットワーク構築を進めた。

8 セーファーセックスガイドの作成・配布

HAVE A NICE SEX!

概要: HIVの感染経路を知ることで、HIVをもっている、そうでなくても自分なりのセーファーなSEXを考える冊子。今期4,668部配布。

●主な発送先

保健所・検査施設	HIV/AIDS関連	研修会
中央区保健所	春日部保健所	google
江東区保健所	八王子保健所	エイズ学会
長野保健所	川崎市保健福祉センター	ケヤキ並木
鹿野島市	新宿検査相談室	iccap
多摩府中保健所	市原保健所	ジャンププラス
千葉県東葛保健所	AIチェッククリニック	国立保健医療科学院
町田市保健所	名古屋医療センター	静岡病院 東島氏講演
新宿区保健所	SHIP	博多haco
横浜都基区		国際キリスト教大学
多摩川病院		玉川大学

各地の保健所からのニーズが高い資料。

東京都、神奈川県、千葉県、埼玉県にある自治体や保健所と連携し、①自治体・保健所等とのエイズ対策事業に関する意見交換会、②保健所等の HIV 検査担当者への研修会、③ヤローページによる協力保健所等の検査機関の掲載と MSM への検査促進、④HIV マップと連動した支援情報、検査情報の広報などを計画、実施した。

1) HIV 抗体検査体制の整備

(1) エイズ対策事業に関する意見交換会

首都圏に於ける各自治体担当者、エイズ予防のための戦略研究での協力保健所担当者を対象に意見交換会の参加を呼び掛けた。この会の目的は、①戦略研究 MSM 首都圏グループの取り組みと成果の報告、②「保健師（検査担当者）を対象とする研修会」の説明、③HIV 検査促進の啓発資料「ヤローページ」の企画説明と臨時・定例検査情報の提供依頼、④HIV 受検者アンケートの説明と協力依頼、⑤各地域担当者との情報交換である(図⑨)。

16自治体・機関から20名の参加があった。参加者からの反応は、千葉県では意見交換会を契機に「HIV 検査担当者への研修会」を継続実施する事になり、戦略研究時にネットワークをもてなかった埼玉県の参加があり意見交換会を契機にはじめて同研修会を開催することとなった。また、MSM 対策がどのような状況で行われているか把握できた、相談体制を整え検査体制の充実を図る必要性を理解したなどの意見があった。

本年度は計2回の「エイズ対策事業に関する意見交換会」を開催し、2012年3月14日実施の交換会では、2012年度の臨時検査等を含めた情報交換の場となった。

(2) 保健所等の HIV 検査担当者への研修会

東京都、神奈川県、千葉県、埼玉県の HIV 検査担当者を対象とした研修会で、セクシュアリティ理解、首都圏の HIV 感染の疫学動向、MSM 受検者や HIV 陽性者への相談・対応に関する当事者参加型の模擬体験研修を企画・実

施した(図⑩)。この研修会を受講した保健所等の検査機関の内、MSM への積極的な HIV 検査機関広報戦略に応じた保健所を「あんしん HIV 検査サーチ」に掲載し、定期検査と臨時検査の紹介を行った。

9 自治体とのエイズ対策事業に関する意見交換会

NGOと行政、自治体の連携を図る。MSMを対象とするHIV検査環境を整備する。

東京都	
東京都福祉保健局	1名
東京都健康安全保健所	2名
江東区健康保健所	1名
港区みどり保健所	2名
北區保健所	—
中區保健所	—
新宿区保健所	1名
中野区保健所	—
港区保健所	—
八王子市保健所	2名
町田市保健所	—
神奈川県	
神奈川県福祉保健局	—
神奈川県健康増進課事務所	1名
横浜市健康福祉局	1名
川崎市健康福祉局	1名
相模原市健康福祉局	1名
鎌倉市健康福祉局	1名
横浜西保健所	1名
千葉県	
千葉県健康福祉部	1名
埼玉県	
埼玉県健康福祉部	1名
さいたま市健康福祉局	—
NGO	
かながわレインボーセンター-SHIP	1名
多摩川病院(検査施設)	2名

日時：2011年8月22日
会場：community center akita
参加：合計20人
首都圏に於ける各自治体担当者
戦略研究時の協力保健所担当者

目的：
・戦略研究MSM首都圏グループの取り組みと成果を報告
・今年度「保健師（検査担当者）研修会」実施の説明
・啓発資料「ヤローページ」への臨時・定例検査情報提供依頼
・検査所アンケートの説明と協力依頼
・各地域担当者との情報交換の場を設け、調整する。

効果：
・千葉県では前任の担当者から引き継ぎが無く予定していなかったが、この意見交換会を契機に研修会を実施する事になった。
・戦略研究時にネットワークをもてなかった埼玉県で、この意見交換会を契機にはじめて研修会を開催できた。
アンケートによる参加者の声：
・他地域の活動を知ることができた。
・MSM対策などのような状況で行われているか把握できた。
・相談体制を整え検査体制の充実を図る必要性を理解できた。
・協力した調査結果を知り、自分の感覚が数字でわかった。

※第2回エイズ対策事業に関する意見交換会
2012年3月14日実施

10 MSMを対象とするHIV検査環境一検査担当者研修会

東京都	神奈川県	千葉県	埼玉県
東京都福祉保健局 健康安全定感染対策課 エイズ対策係	神奈川県福祉保健局 健康課健康危機管理課 感染対策グループ	千葉県福祉保健部 疾病対策課 感染対策室	埼玉県福祉保健部 疾病対策課 感染対策担当
●日時：2011年9月17日 ●会場：都庁第一庁舎	●日時：2011年11月2日 ●会場：横浜市健康福祉総合センター	●日時：2011年10月25日 ●会場：市川健康福祉センター	●日時：2012年1月30日 ●会場：埼玉県危機管理防災センター
●参加人数 29人	●参加人数 27人	●参加人数 19人	●参加人数 13人
●東京都プログラム 1 挨拶 2 手取りガイド 3 セクシュアリティとセクシュアルヘルスの支援 4 MSMにおけるHIV/AIDSの現状を首都圏戦略研究から学ぶ 5 検査環境取り組み事例紹介 6 グループ討議 7 アンケート結果の横断対比 8 手取りアンケート記入	●神奈川県アンケート 「グライバー」を学ぶ 研修録 研修後 「グライバー」を学ぶ 研修録 研修後 「グライバー」を学ぶ 研修録 研修後 「グライバー」を学ぶ 研修録 研修後 「グライバー」を学ぶ 研修録 研修後 「グライバー」を学ぶ 研修録 研修後 「グライバー」を学ぶ 研修録 研修後 「グライバー」を学ぶ 研修録 研修後 「グライバー」を学ぶ 研修録 研修後 「グライバー」を学ぶ 研修録 研修後	●千葉県研修風景	●埼玉県参加風景 川口保健所／春日部保健所／草加保健所／高槻保健所／東山保健所／狭野保健所／狭山保健所／加須保健所／本庄保健所／保谷保健所／川崎市保健所／防衛医科大学付属看護課

MSMについての理解を深め、HIV検査や相談時に適切な対応ができるようにする。

2) HIV 検査受検行動促進啓発プロジェクト (ヤロー プロジェクト) の開発と普及

MSM が利用する首都圏ゲイスポット (ゲイ向け商業施設) と、MSM が安心して検査を受けられることができる協力検査機関の通常検査・臨時検査情報および HIV の基礎知識、相談・支援情報を掲載したガイド冊子作成を、ゲイ雑誌の担当者と共に企画検討し、保健所等の HIV 検査情報・マップガイドを商業施設に配布した。ヤローページ 2011 年秋冬号 (全 76 ページ) を 6,000 部制作し、11 月中に 5,800 部配布した(図⑪)。ヤローページの首都圏アウトリーチは図に示した通りで、684ヶ所へのアウトリーチにより、684ヶ所からの情報

発信となった(図⑫)。

キャッチーなタイトルとパッケージによる話題性から、ゲイ向け性風俗店から追加オーダーがあり、最大で1店舗に合計380冊を納めるなどの成果があった。これは7年以上継続して、顔の見えるアウトリーチを行って来た成果でもある。次年度以降は、リーフレットと冊子を定期的に作成し配布する。アウトリーチ活動を活かした商業施設情報の集約と、意見交換会の成果を活かした検査情報を掲載していく予定である。

11 ヤロープロジェクト
ヤローページ2011年秋冬号

概要：首都圏ゲイスポット（ゲイ向け商業施設）ガイド&HIV検査情報・マップ
 MSMが安心して検査を受けることができる協力施設の通常検査・臨時検査情報とHIVの基礎知識、相談・支援情報を掲載。ゲイ雑誌Gメン発行の古川書房が商業施設情報を提供。全76ページ、6,000冊制作。11月中旬に5,800冊配布。

ヤローページ = ゲイスポット情報 + (HIV情報)

成果：キャッチーなタイトルとパッケージによる話題性から、啓発資料としては初めて、ゲイ向け性風俗店から追加オーダーがあり、最大で1店舗に合計380冊を納品、7年以上継続して、顔の見えるアウトリーチを行って来た成果でもある。
 予定：来期以降、リーフレットと冊子を定期的に作成し配布する。自分たちのアウトリーチ活動を活かした商業施設情報の集約と、意見交換会の成果を活かした検査情報を掲載。

コミュニティの商業施設と連携し、HIV/AIDSに無関心な層を予防・検査につなげる。

12 ヤロープロジェクト・アウトリーチのスキーム
684ヶ所へのアウトリーチ、684ヶ所からの情報発信。

ポスター、ステッカー、冊子、MSM 首都圏グループ

神奈川レイン・ポリセンター・SHIP来場者 → 野毛バー、他：26店舗
 東京都内 HIV/AIDS 関連イベント：3件

akta community center 新宿二丁目来場者

DELIVERY BOYS 新宿二丁目バー、クラブ：167店舗
 Adult 新宿・大久保・池袋・新橋・上野・浅草・性風俗店、ショップ：47店舗
 資材発送 全域保健所、他：144件
 MSM 首都圏グループ 渋谷・新橋・上野・浅草・他地域バー：281店舗
 千葉県・神奈川県保健所：16件

3) 相談体制の整備

エイズ予防のための戦略研究では、HIVに関連して生じる様々な相談、特にMSM向け相談が対応可能なNGO等と連携し、相談窓口を開設している機関を掲載し紹介するインターネットサイト「HIVマップ」に制作した。HIVマップは、2011年度から厚生労働省の委託事業「同性愛者等のHIVに関する相談・支援事

業～同性愛者等向けホームページによる検査相談等情報提供」として、ぷれいす東京が受託運営している。このサイトは、MSM 首都圏グループと連動して運営されており、MSM 首都圏グループがヤローページ等で紹介する保健所等の検査情報も、あんしんHIV検査サーチとしてWeb広報している。

3. MSM 集団における啓発介入評価調査

1) 2010年までの調査結果

(1) バー顧客調査の結果

ゲイ向け商業施設に調査協力を依頼し2008年度109店舗、2010年度177店舗の協力を得て、総計5,778部配布し、3,549部を回収した。首都圏在住ゲイ・バイセクシュアル男性およびMSM3,177名を分析対象とし、エイズ予防のための戦略研究でのキャンペーン効果を評価した。

HIVマップ(Web)は2008年19.5%、2010年20.3%で推移し、あんしんHIV検査サーチは4.8%から12.7%に上昇していた。REALロゴの認知は2008年25.4%から2010年51.7%に大きく上昇し、2010年の「できる！キャンペーン」の4種(2ヵ月ごとに展開)のポスターの認知率は62.7%、49.0%、46.6%、43.6%と高い割合で認知されていた。

生涯HIV抗体検査受検経験率は、2008年が61.3%、2010年が59.1%でほぼ同じで、経年的な変化はみられなかった。過去1年間の受検割合も2008年が31.7%、2010年が27.7%でほぼ同じであった。過去1年間に受検経験があった人のうち一番最近に受検した検査場所は両年度とも首都圏の保健所・保健センターが最も高く、2008年37.8%から2010年は45.6%に上昇していた。

2010年に展開した「できる！キャンペーン」4種のポスターの認知数別に生涯受検経験率、過去1年の受検経験率を比較したところ、新宿地域、新橋地域、上野・浅草地域、横浜野毛地域のいずれの地域も、ポスターの

非認知群に比べて、ポスター認知群は高い受検経験率で、ポスターの認知数が多いほど高い経験率であった(図13⑭)。1回の広報より繰り返す広報に効果のあることが示唆された。

(2) 保健所等の検査受検者の啓発資材認知

エイズ予防のための戦略研究では、保健所のHIV検査受検者にアンケート調査を行い、啓発介入に用いた資材認知を評価している。首都圏で開発し広報したMSM向けの啓発資材等の認知はMSM受検者に特異的であり、MSMのHIV検査の推進に協力した定点保健所では、MSM受検者における啓発資材認知割合が18.2%(2007年)から49.9%(2010年)に上昇(図15)、非定点保健所でも9.3%(2007年)から37.9%(2010年)に上昇していた。MSM向け啓発資材の訴求性の高さが示された。

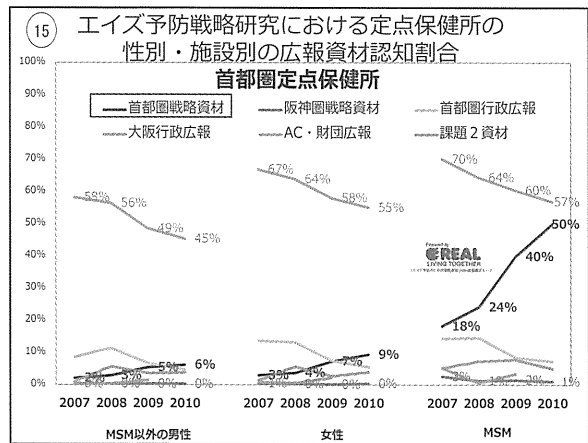
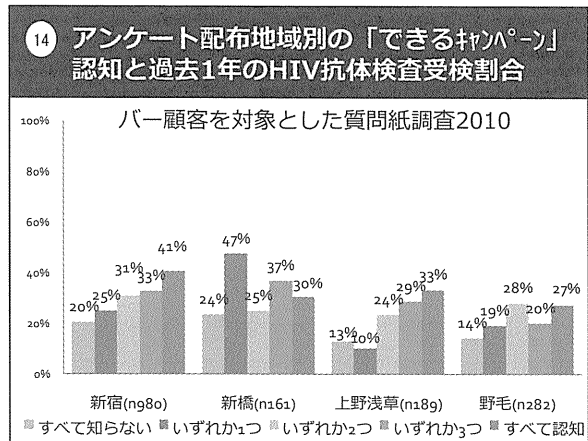
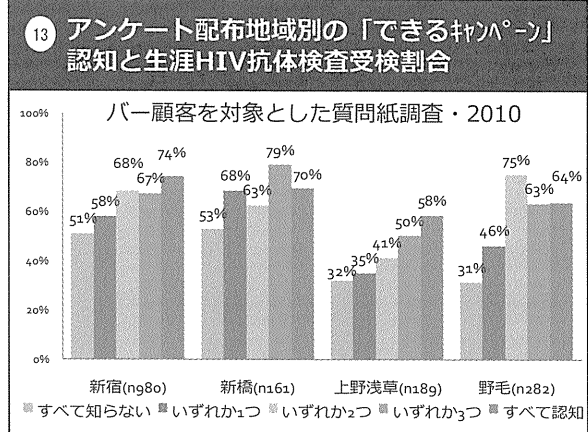
(3) 2011年度調査の経緯

- ・横断調査およびパネル調査：

横断調査から追跡可能なMSMを募集し、性行動、検査行動の把握や普及啓発の効果を評価するパネル調査を実施する準備を行った。マンスリーaktaを介して横断調査への参加協力を呼びかけ、次いで、間断的に実施されるパネル調査にヤローページ等の啓発活動を連動させ、首都圏のMSM集団における検査行動、予防行動を評価する予定である。

- ・HIV検査受検者動向調査：

MSM受検者動向の把握、普及啓発との関連を評価する調査手法(保健所の受検件数、受検者対象質問紙調査)を東京19機関、神奈川7機関で実施している(図16)。次年度から千葉、埼玉でも実施する予定である。



16 HIV検査受検者調査協力機関

東京都	千代田区千代田保健所	中央区保健所	神奈川県	神奈川県厚木保健福祉事務所
品川区保健所	(品川保健センター、荏原保健センター)		神奈川県大和保健福祉事務所	
目黒区保健所	新宿区保健所	神奈川県平塚保健福祉事務所		
板橋区保健所	練馬区豊玉保健相談所	神奈川県鎌倉保健福祉事務所		
港区みなと保健所健康サービスセンター		横浜AIDS市民活動センター(横浜市夜間検査会場)		
江戸川保健所	北区保健所	結核予防会中央健康相談所(横浜市土曜検査会場)		
大田区保健所(大森地域健康課、調布地域健康課、糎谷・羽田地域健康課、蒲田地域健康課)		神奈川県予防医学協会中央診療所(横浜市日曜検査会場)		
八王子市保健所	東京都多摩府中保健所	千葉県(調整中)		
南新宿東京都検査相談室	東京都多摩地域検査相談室	埼玉県(調整中)		

D. 考察

1. MSM を対象とした戦略研究の効果

2006 年度から開始されたエイズ予防のための戦略研究では、それまで殆どエイズ関連の啓発介入がなかった上野・浅草、新橋地域で啓発活動を展開し、検査キャパシティの高い保健所等での MSM の受検機会を確保し、検査行動を促進させる取り組みを行った。当事者 NGO の訴求性のある啓発活動により介入対象層が拡大し、保健所等の検査機関との協働により MSM の HIV 検査の受け皿が確保され、受検を勧奨する広報が実施された。MSM の HIV 検査受け入れに積極的に協力した定点保健所では、2009 年から 2010 年には MSM 受検者数が増加し、HIV 陽性割合も上昇し、MSM 受検者の首都圏啓発資材の認知割合も著しく上昇していた（木村哲・研究分担者報告、参照）。このような効果は、2010 年度に実施した「エイズ発症予防できるキャンペーン」によってもたらされたことが、首都圏バー顧客調査のポスター認知と HIV 受検行動の関連によって示されている。

これらの啓発活動は、NGO の献身的な取り組みによるところが大きく、その活動の実施を可能とした戦略研究費によるところでもある。新宿地域を中心とした活動であった戦略研究以前から、上野・浅草、新橋と地域を広げた現在、この啓発活動を停止することは、首都圏の MSM におけるエイズ対策を後退させることになる。そのため、本研究班では、MSM 首都圏グループを形成し、厚生労働省が戦略研究一部のプログラムを事業としたことを活かすべく、今後の啓発普及の方向性を検討した。その結果、(1)エイズ対策事業に関する意見交換会、(2)保健所等の HIV 検査担当者への研修会、(3) HIV 検査受検行動促進啓発プロジェクト（ヤロー プロジェクト）の開発と普及、(4)相談体制の整備（インターネットサイト「HIV マップ」との連動）、(5)MSM 集団における啓発介入の評価調査を実施することと

した。

MSM 首都圏グループでは、首都圏の自治体・関係機関とのエイズ対策に関する意見交換会を設け、MSM に向けたエイズ対策の方向性を、NGO と行政が協働して検討し、検査普及や予防介入に取り組むこととしている。本研究班では、啓発事業と効果評価を行う研究を連動させて取り組み、地域の MSM を対象とした有効なエイズ対策の確立に貢献したいと考える。

2. 首都圏における HIV/AIDS 動向

厚生労働省エイズ発生動向調査（2010 年報告）によれば、首都圏の HIV 感染者報告数は、2010 年後半に増加がみられたが、他の地域ではこのような変化は見られていない。また、地域ブロック別のエイズ患者報告数は、近畿地域、東海地域では増加していたが、東京の 2010 年報告数は横ばいの傾向であった。また、2011 年の HIV/AIDS 報告数（東京都・速報値）は、前年と比べ、HIV 感染者は 77 件減、AIDS 患者は 23 件減の報告数であった。HIV 感染者報告数、AIDS 患者報告数ともに減少し、特に AIDS 患者は過去 10 年で最も少ない報告数となっていた。エイズ発生動向調査の傾向や東京都の AIDS 患者の減少から、東京の MSM の間では HIV 検査が促進され、エイズ患者発生を抑制した可能性が考えられる。また、東京都の報告で、HIV 感染者報告数が大きく減少した点については、予防行動が進み新たな HIV 感染の広がりが抑えられていることが考えられる。しかし、近年の HIV 検査受検者数の減少と HIV 陽性者数の減少から、AIDS 患者の減少は一時的なことの可能性も考えられる。

2009 年までに実施したクラブイベント参加者調査では、MSM における検査行動、予防行動の上昇が示されてきた。その一方で、バー顧客調査では、MSM 集団の生涯の HIV 検査受検割合、過去 1 年間の HIV 検査受検割合に、2009 年、2010 年で大きな変化は見られていない。

HIV感染者、AIDS患者の発生を抑えるためには、今後もMSMを対象とした検査促進と予防啓発について、訴求性のある啓発活動を継続していくことが望まれる。

E. 結語

首都圏の男性同性愛者等を対象に、HIV抗体検査の啓発普及、HIV感染予防の啓発普及を促進し、エイズ発症者の減少とHIV感染の拡大防止を目的とする。

コミュニティセンターaktaを中心としたコミュニティベースの啓発活動、そしてふれいす東京との協働体制であるMSM首都圏グループにより検査普及啓発活動を行った。エイズ予防のための戦略研究で構築したネットワーク、すなわちコミュニティにおける啓発活動を促進する商業施設やメディア等とのネットワーク、安心して受けられるHIV検査の受検促進のための行政・保健所、医療機関とのネットワーク、そして多様なニーズに対応した支援を行っているNGO/NPO等とのネットワークの継続を図り、以下のことを行った。(1)エイズ対策事業に関する意見交換会、(2)保健所等のHIV検査担当者への研修会、(3)HIV検査受検行動促進啓発プロジェクト(ヤロープロジェクト)の開発と普及、(4)相談体制の整備(インターネットサイト「HIVマップ」との連動)、(5)MSM集団における啓発介入の評価調査。

F. 発表論文等

(国際学会発表)

1) ○Kota Iwahashi, Noriyo Kaneko, Satoshi Shiono, Jane Koerner, Yukio Cho, Junko Araki, Yuzuru Ikushima, Seiichi Ichikawa, Shinichi Oka, Satoshi Kimura: Results of the 2008 to 2010 RDS Mobile Phone Survey to Evaluate the Strategic Research HIV Testing Promotion Campaign among MSM in Tokyo, The 10th ICAAP, August 2011, Busan

2) ○Kei Shibata, Kota Iwahashi, Yuzuru Ikushima, Seiichi Ichikawa, Shinichi Oka, Satoshi Kimura: HIV Map Internet portal site: Part of the Strategic Research to promote HIV testing among MSM in Tokyo, The 10th ICAAP, August 2011, Busan

(学会発表)

1) ○柴田恵, 岩橋恒太, 張由紀夫, 荒木順子, 高野操, 生島嗣, 市川誠一: 首都圏居住MSMを対象としたwebサイト「HIVマップ」におけるHIV抗体検査情報提供手法の開発—エイズ予防のための戦略研究MSM首都圏グループ, 第25回日本エイズ学会学術集会・総会, 2011, 東京

2) ○生島嗣, 荒木順子, 佐藤未光, 高野操, 中澤よう子, 星野慎二, 岩橋恒太, 張由紀夫, 市川誠一, 野口雅美, 滝田由紀子, 御子柴朋子, 新屋敷房代: 東京周辺の検査従事者にむけた研修会実施とその影響についての考察—エイズ予防のための戦略研究MSM首都圏グループ, 第25回日本エイズ学会学術集会・総会, 2011, 東京

3) ○岩橋恒太, 高野操, 塩野徳史, 柴田恵, 生島嗣, 張由紀夫, 荒木順子, 砂川秀樹, 市川誠一: 首都圏居住MSMに向けたHIV抗体検査促進のためのキャンペーン「できる!」の構成と効果—エイズ予防のための戦略研究MSM首都圏グループ, 第25回日本エイズ学会学術集会・総会, 2011, 東京

4) ○中村久美子, 木村博和, 荒木順子, 柴田恵, 塩野徳史, 市川誠一: ゲイ向けクラブイベント利用者質問紙調査による東京の加入プログラムの効果評価に関する研究, 第25回日本エイズ学会学術集会・総会, 2011, 東京

5) ○金子典代, 岩橋恒太, 塩野徳史, Koerner Jane, 生島嗣, 荒木順子, 市川誠一: RDS法を用いた携帯電話調査による首都圏での啓発プログラムの評価—エイズ予防のための戦略研究MSM首都圏グループ, 第25回日本エイズ学会学術集会・総会, 2011, 東京

6)○荒木順子, 岩橋恒太, 張由紀夫, 砂川秀樹,
柴田恵, 高野操, 星野慎二, 塩野徳史, 生島嗣,
市川誠一:ゲイコミュニティ及び行政機関に
向けた首都圏における広報資材の大規模アウ

トリーチの構成と実績ーエイズ予防のための
戦略研究MSM首都圏グループ, 第25回日本
エイズ学会学術集会・総会, 2011, 東京

東海地域の MSM における HIV 感染対策の企画と実施

研究分担者：内海眞（独立行政法人国立病院機構東名古屋病院 院長）

研究協力者：石田敏彦、藤浦裕二（Angel Life Nagoya ; ALN）、吉澤繁行（ALN, 名古屋市立大学看護学部）、真野新也（LIFE 東海）、岡本稔（HIV と人権・情報センター）、杉江修治（中京大学）、金子典代、新ヶ江章友、塩野徳史、市川誠一（名古屋市立大学看護学部）

研究要旨

我々は 2000 年 4 月に MSM の CBO である Angel Life Nagoya (ALN) と名古屋医療センター（旧国立名古屋病院）の医療者から成る協働組織を作り、MSM を対象にした HIV 感染予防活動を開始し、2002 年から当研究班に属した。昨年 1 年間には上記活動組織を少し拡大し、MSM に対する予防啓発に関心のある他のグループや個人を含む新たな拡大組織を形作り、予防啓発活動を実践した。本年度の活動は以下の通りである。

1. ゲイコミュニティへの HIV 関連情報の発信

情報発信として以下のことを実施した。1) コミュニティペーパー「h. a. n. a.」の作成と配布（毎月発刊から季刊とし、ゲイバー35 軒、ショップとハッテン場合計 3 軒に配布）、2) 勉強会の開催（月 1 回の開催）、3) 啓発拠点の整備と広報活動（コミュニティセンター rise の運営を週 4 日から 5 日に増やした）、4) 啓発イベント NLGR (Nagoya Lesbian and Gay Revolution) の開催（ALN を含む多くの人々による実行委員会形式に移行、参加者は 2 日間でのべ 3500~4000 人と推定）。

2. メッセージ付きコンドームの配布

コンドームの配布は毎月実施し、35 軒のゲイバーに各々 20 個、2 軒のハッテン場に各々 500 個、7 件のクラブイベントに各々 300 個配布した。ゲイバーでの受け取り率は 94.7% と前年に比べ飛躍的に上昇した。

3. 無料 HIV 検査会の実施

行政主催の 3 つの無料 HIV 検査会に協力した。①6 月の NLGR+検査会、②12 月の M 検、③12 月の M 検 in 岐阜。受検者並びに陽性者は、①254 名、4 名（1.6%）、②106 名、2 名（1.9%）、③24 名、1 名（4.2%）であった。

4. 教師を目指す大学生に対する Group Investigation (GI) モデル

Group Investigation (GI) モデルによる HIV/AIDS 教育を某私立大学生に継続的に実践した。

5. これまでの活動と名古屋医療センターの HIV 患者動向との関係調査

これまでの予防啓発活動は名古屋医療センターにおける MSM の HIV 診断時のエイズ発症を減少させてはならず、予防啓発活動のさらなる拡充が望まれた。

6. 活動組織の拡大。

上記 5 の結果を踏まえ、ALN と医療者との協働組織に、他の予防啓発活動を行うグループや個人を加えた組織の拡大を図った。

A. 研究目的

わが国の HIV 陽性者の新規発生動向は必ずしも望ましい方向へ向かっているとは言えない。厚生労働省のエイズ動向委員会の報告によれば 2010 年 1 年間の新規エイズ患者数は 469 人で過去最高を記録している。しかも、感染者患者の双方で、MSM の割合は減少していない。2011 年の 1 年間の動向はまだ報告されていないが、例えば 3 月 29 日から 6 月 27 日までの 3 ヶ月間の動向では、新規エイズ患者数が過去最高の 129 人が記録された。一般に HIV 感染症の予防啓発活動が奏功すれば、早期に検査を受ける人が増えると予想されるので、エイズ患者数は減少すると思われる。この観点からすれば、動向委員会の報告は、我が国の HIV/AIDS を巡る状況は望ましい方向とは逆の方向を示していると言わねばならない。さらに、2010 年は保健所等における HIV 検査数と相談数も大幅に減少し、事態は決して楽観できる状況ではない。その意味で、我々の研究活動はさらなる深化と拡充が求められる。

この 1 年間、これまでと同様に HIV 感染症の予防啓発を目指す活動を実践するとともに、新たに活動組織を見直し、より広範な人々の結集を可能にする組織形態の形成に着手した。

この 1 年間に実施した予防啓発活動は以下の通りである。

1. ゲイコミュニティへの HIV 関連情報の発信
 - 1) コミュニティペーパーの作成と配布
 - 2) 月 1 回の勉強会の開催
 - 3) 啓発拠点の整備と広報活動
 - 4) 啓発イベント NLGR+ の開催
2. メッセージ付きコンドームの配布
3. 無料 HIV 検査会の実施
4. 教師を目指す大学生に対する HIV/エイズ教育
5. これまでの活動と名古屋医療センターの新規 HIV 陽性者動向との関係調査
6. 活動組織の拡大

本報告では、上記活動の実績を示すとともに考察を加え、今後への展望を行う。

B. 研究方法

1-①コミュニティペーパー「h. a. n. a.」は当初月 1 回ゲイ関係の商業施設に配布していた。今年からは季刊に変更した。

1-②啓発拠点 rise で月 1 回スモールミーティング方式による性感染症などのテーマの勉強会を開催した。

1-③啓発拠点の rise では、上記勉強会を含め、小さな各種ミーティングを開催した。また新規を含む来場者数をカウントした。

1-④6 月の第一土曜日と日曜日に名古屋市の池田公園を中心とし、各種ゲイ向けの商業施設の協力を得て、HIV 関連情報の発信と HIV 検査への呼びかけを主たる目的にしたイベントを開催した。同時に無料 HIV 検査を実施した（後述）。

2. メッセージ付きコンドームをゲイ向けの商業施設に月一回配布するとともに、その消費数をカウントした。

3. 無料 HIV 検査会を年に 2 回実施した。2007 年までは NLGR に併設する形で、NLGR の中心会場である池田公園に近接する民間のホテルを借り切って開催したが、2008 年からは NLGR 併設のほか 12 月にも実施した。場所はいずれも千種保健所を使用した。名古屋市と名古屋医療センターと協働する形で実施した。また、本年 12 月岐阜県主催による MSM を対象にした無料 HIV 検査会が実施されたが、我々の活動組織も協働した。

4. GI モデルによるエイズ教育は、まず教師が課題をクラス全体に提示し、その後「I クラス全体でサブテーマを決め、これに対応する研究小グループを編成する」「II 小グループで探求計画を立てる」「III 探究活動を実行する」「IV 小グループで自分たちの発表を計画する」「V グループで発表する」「VI 教師と学生が個人レベル、グループレベルで GI を評価す

る」という6段階を進み、12～15時間でひとつのテーマの学習を終えた。

5. ALNの活動の予防啓発効果について検討した。検討方法は、名古屋医療センターにおける新規HIV陽性者(MSM)、特にHIV感染症診断時にエイズ発症している新規陽性者の動向を調査することによって行った。

6. 活動組織の拡大は、NLGR+の実行委員会組織の拡大と、予防啓発活動を担当する組織(従来はALN)の拡大の2方面で行った。

C. 研究結果

1. ゲイコミュニティへのHIV関連情報の発信

1) コミュニティペーパーの作成と配布

HIV関連情報とともに、街の情報と名古屋市の地図や地下鉄の時間表などを掲載したコミュニティペーパー「h. a. n. a.」を連携するバーに1軒当たり20部、ショップとハッテン場に30部を毎月1回配布した。連携するバーの数は年によって異なっているが今年35店舗で、全体のバーの約2/3をカバーしてきた。ショップは4軒中1軒にとどまった。

2) 月1回の勉強会の開催

勉強会は月1回第3土曜日に活動拠点であるriseで実施した。勉強会は日常的なテーマを取り上げて実施しているが、その中にHIV関連情報やSTD情報を織り交ぜるように工夫した。参加者は平均5-6名であった。

3) 啓発拠点の整備と広報活動

コミュニティスペース rise は名古屋市中区栄女子大小路地区の同性愛者を対象とした商業施設を利用するMSMが、気軽に立ち寄ることのできる施設(ドロップインセンター)として、また、名古屋市栄女子大小路地区に集まるMSMへのHIVを含む性感染症に関する相談、予防知識・関連資料の提供とその取得の補助、性行為における予防に向けた意識改革と行動変容の支援拠点として設立され、2004年8月1日にオープンした(当時はNagoya Nagoyaka Navigation、略称3Nと呼

ばれた。2006年5月に現在の場所に移転)。riseの運営・管理を行い、ゲイコミュニティが受け入れやすい予防啓発内容を検討し、結果としてHIV/STI感染の拡大防止を図ることがrise設立の目的である。riseへの来場者数は2009年の4月から12月までの9ヶ月間では1423人、2010年には1291人、2011年には1522人であった。

また、以下の各種ミーティングを開催している。僕らのゲイライフプロジェクト(第2土曜)、手話教室(第2, 4土曜)、GID PROUD定例会(第3土曜)、WADN youth cafe(第3土曜)、フラワーアレンジメント教室(不定期)、ハワイアンタロット占い(6月)、サマーライズスクール(6, 7, 8月)。

4) 啓発イベントNLGR+の開催

NLGR+が6月の第一土曜日の午後から日曜日の夕方までの2日間に亘って開催された。3500～4000人の推定来場者があった。池田公園をメイン会場とし、そこには16に及ぶ各種ブースが設営されるとともに、ステージでは各種催し物とHIV関連情報の発信が行われた。HIV陽性者によるトークもプログラムの中に組み込まれるとともに、陽性者の声を展示するブースも設けられた。今回はALNを含むNLGR+開催に賛同する人々で実行委員会を形成し、そこが主体となってイベントが企画され実施された。NLGR+がより広範な人々の関心と呼びこむきっかけにしようとした。

(NLGR+来場者アンケート調査)

会場においてノートパソコンPCを用いた質問紙調査を行った。質問項目は、基本属性、HIV抗体検査受検行動、コンドーム使用行動、NLGR+来場経験などであった。MSMまたはゲイ・バイセクシュアル男性からの有効回答数は281件であった。ゲイ・バイセクシュアル男性群、NLGR+来場者の東海地域在住ゲイ・バイセクシュアル男性群、それぞれについて、各質問項目の経年推移、年齢別経年推移を分

析した。ゲイ・バイセクシュアル男性群における経年推移を表3に示した。年齢は25歳から34歳までが約半数である傾向が3年連続で続いており、居住地も名古屋市、愛知県在住者を合わせると過半数を超える状況が続いている。NLGRはインターネットから知った者の割合が最も多かった。

NLGR来場者の東海地域在住ゲイ・バイセクシュアル男性群における経年推移を表4-5に示す。NLGRについて知った情報源はインターネットが最も多く、上昇傾向が見られた。また過去6か月のゲイバー・レズビアンバーやゲイナイト・ビアンナイトの利用経験割合は2010年、2011年ともに2009年より高かった。

「h. a. n. a.」の購読経験者の割合は減少しており、riseの来訪経験は変化は見られなかった。生涯での検査受検経験は経年的に低下の傾向がみられた。

年齢別に経年比較を行うと、29歳以下の層においては、検査行動は低下しているが、30-39歳の層においても一部低下がみられていた。30-39歳においては、コンドーム使用についても減少していた(表6)。

2. メッセージ付きコンドームの配布

コンドームの配布はゲイバー、ショップ、

ハッテン施設を対象に実施された。今年度はコンドームパッケージのデザインを刷新した。遊び心のあるデザインとメッセージ性のある台詞を入れた。パッケージの種類は3種類とした。35軒のバーと1軒のショップには毎月20個を、2軒のハッテン施設には毎月500個を配布した。7件のクラブイベントにはそれぞれ300個を配布した。35軒のバーにおけるコンドームの消費率は94.7%で、一年前の70.8%から大幅に上昇した。配布するバーの数は年によって異なるが今年は35軒で、全バーの約2/3をカバーした。ショップは全体の25%をカバーし、ハッテン施設は4割をカバーするにとどまった。

3. 無料HIV検査会の実施

無料HIV検査会は、これまではNLGRに併設するもののみであったが、2008年からは12月に行うM検を加え、年2回とした。これまでの受検者数およびHIV陽性者数とその割合は表1の通りである。これまでは、土曜日にプレカウンセリングと採血ならびにスクリーニング検査を行い、夜間にHIV-RNA定量、日曜日午前にはウエスタンブロットを実施し、日曜日午後には結果通知を東海地区在住のHIV医療に携わる医師によって行うという方式で

表1 NLGRとM検における受検者数と陽性者数の推移

	受検者数	HIV陽性者数	陽性者率
2008年(12月)	92名	5名(*1名)	5.43%
2009年(9月)	107名	5名	4.67%
2009年(12月)	73名	1名	1.40%
2010年(6月)	189名	6名	3.17%
2010年(12月)	33名	0名	0.00%
2011年(6月)	254名	6名(*2名)	2.36%
2011年(12月)	106名	2名	1.89%

* ()名は、検査前から既に陽性であることを知っていた人数。

あったが、2011年の無料HIV検査は迅速検査を行い、陽性もしくは擬陽性のみ確認検査を加え翌日結果通知する方法を試みた。なお、NLGR検査会では、今年からイベント会場でもプレカウンセリングを行い、イベント会場から千種保健所までシャトルバスを運行した結果、大幅な受検者増が生じた。2011年12月には岐阜県によるMSM対象の無料HIV検査が行われ、我々も研修会の開催、検査に関する電話相談事業、広報などの支援を行った。

(検査受検者へのアンケート調査)

検査受検者に対して質問紙調査を行い、HIV/STI予防に関する知識・行動や予防啓発プログラムへの接触状況、HIV抗体検査受検率などについて調査した(後述の研究協力者・新ヶ江章友報告書参照)。東海地域在住のMSM(NLGR+2011:n=208、M検2011:n=101)の分析結果は以下のようであった。

2011年のNLGR+検査会では、新たな取り組みがなされ、啓発イベントNLGR+2011の会場で検査前オリエンテーションが行われ、そのオリエンテーションを受けた後に千種保健所に無料シャトルバスで送迎された。イベント会場で検査前オリエンテーションを受けたものは、千種保健所でオリエンテーションを受けたものと比較すると、生涯初の検査だったと答えたものの割合が高かった。したがって、イベント会場での検査前オリエンテーションの実施は、新規の検査受検者を取り込む可能性が示唆された。また12月に実施されたM検2011では、即日検査が実施され、これまでに検査を受けたことがないものが全受検者の24.8%を占めた。M検に即日検査を導入したことで、初めて検査を受けるものを取り込むことができたかについて、継続的にモニタリングする必要がある。

4. 大学生に対するHIV/エイズ教育

Group Investigationのモデルによるエイズ

ズ教育の効果については、昨年報告した。この教育の対象者は将来教員を志望する学生で、この教育による間接的効果が未来の若い世代に及ぶことを期待して継続している。1月13日金曜日には本教育の成果が大学構内に於いて公開された。

5. これまでの活動と名古屋医療センターの新規HIV陽性者動向との関係

ALNの予防啓発活動は2000年から開始された。予防活動の基本的な内容は、M検以外は以前からのものである。そこで、ALNの活動のHIV予防に対する効果について検討した。活動の評価は、名古屋医療センターにおける新規HIV陽性者の推移を見ることによって判定した。名古屋医療センターのHIV陽性者数は2011年10月1日現在累計で1134名である。予防啓発活動の効果が認められれば早期HIV検査が促進され初診時AIDS発症者は絶対数に於いても割合に於いても下降するはずである。そこで、名古屋医療センターの初診時AIDS患者数とそれがHIV陽性者に占める割合のここ数年間における年次推移を検討した(表2)。この表に示されるように、AIDS患者の絶対数もその割合も明らかな減少傾向にはない。

表2 新規HIV陽性者(MSM)の動向

	新規陽性者数	初診時AIDS患者数	初診時AIDS患者%	前年比
2006年	83	25	30.1%	
2007	108	29	26.9%	下降
2008	94	34	38.4%	上昇
2009	99	43	43.4%	上昇
2010	92	29	31.5%	下降
2011 (9月まで)	90	30	33.3%	上昇
総計	566	190	33.6%	平均